

編集後記

建都千二百年の今年は、奇しくも同志社大学文学部文化学科国文学専攻が設置されてから四十周年、国文学会が結成されてから三十周年になる。その記念行事の一環として、「同志社国文学」の記念号の編集が計画された。実務担当の方からの要請をうけて、編集委員には同志社大学の専任教員以外の者も参加することになった。

特別号の発刊計画にややおくれがあり、原稿募集から締め切りまでの期間がかなり短かったので、原稿の集まりが心配されたが、幸にも在外研究中の向井教授をのぞきすべての専任教員の方々の投稿を得たほか、依頼した方々、自由応募の方々からも所期のとおりにおおくの応募を得た。

応募論文は、同志社大学国文学専攻において、国文学会において、一時期を画するものになりえたかどうか、古代前期から近現代の文学、国語学、国語教育とすべての分野に互っての労作であった。この四十年の間に国文学専攻に大学院の修士課程、さらには博士後期課程が設置され、会員には教育職だけでなく研究職にある方も多くなり、短期間にまんべんなく各分野の論文が集まった。若い方々の応募も少なくなく、同志社大学の卒業生の研究活動の層が着実に厚みをましていることを窺わせ、四十年の歳月の重さを感じさせる。ただ古代前期・後期はともやや年配に属する者の論文ばかりにない、熱心に研究に取り組んでいる若い方々の応募がなかったのは、いささか残念であった。

応募論文は総体に、基本的には、実証的研究に根ざしている。平常の号に所載の論文にもあきらかなように、対象への関心・研究の視点や方法は各自のものがあり、多様であるが、こうした機会に実証研究に基本をおいた論文が集まったことは、土橋寛・南波浩・里井陸郎・安永武人・小森啓助・松下貞三・波多野鹿之助の先生方によつて始まった同志社大学における国語国文学の教育研究の歩んできた方向の基本が暗示されているように思う。この号を一つの区切りとして、次の機会、五十（四十）周年にはどのような展開をみせているか、優秀な学生のいよいよ多く集まりつつある現在、若い研究者が大いに育つて、清新な論文が誌面を埋め、また新たな層の厚みを見せるようになっていくことを期待したい。

一九九四年十一月

(寺川記)

国文学専攻創立四十周年・国文学会設立三十周年

「同志社国文学」記念論文集編集委員会

編集長 寺川真知夫

副編集長 原田教子

生形貴重

加藤昌孝

小島繁一

田中勸儀

山田和人

吉野政治

執筆者紹介

- 駒木 敏……本学教授（一九六七年度修了）
原田 敦子……大阪成蹊女子短期大学教授（一九六九年度修了）
寺川眞知夫……同志社女子大学教授（一九七一年度修了）
廣川勝美……本学教授（一九六三年度修了）
廣田 收……本学教授（一九七五年度修了）
久保田孝夫……大阪成蹊女子短期大学教授（一九七六年度修了）
生井真理子……大谷女子短期大学非常勤講師（一九七五年度修了）
佐伯真一……国文学研究資料館助教授（一九七五年度卒業）
生形貴重……大谷女子短期大学教授（一九七六年度修了）
加美 宏……本学教授
稲田秀雄……山口女子大学専任講師（一九八三年度修了）
生井武世……同志社香里中学・高等学校教諭（一九七一年度修了）
井上厚史……高根県立国際短期大学専任講師（一九八二年度卒業）
山田和人……本学助教授（一九七八年度修了）
北川秋雄……姫路獨協大学助教授（一九八二年度修了）
- 木村 功……洛星中学・高等学校教諭（一九八八年度修了）
宮本正章……四天王寺国際仏教大学助教授（一九六七年度修了）
堀部功夫……池坊短期大学教授（一九六九年度修了）
小川直美……大阪経済大学専任講師（一九八四年度修了）
田中勳儀……本学教授（一九七八年度修了）
黒田大河……本大学院博士課程後期課程在学生
水上 勲……帝塚山大学教授（一九六八年度修了）
吉野政治……同志社女子大学助教授（一九七四年度修了）
浅野敏彦……大阪成蹊女子短期大学教授（一九七一年度修了）
藤井俊博……京都橘女子大学助教授（一九八一年度卒業）
平弥悠紀……本大学院博士課程後期課程在学生
玉村文郎……本学教授
壬生博幸……平安女学院中学・高等学校教諭（一九七〇年度卒業）
加藤昌孝……同志社香里中学・高等学校教諭（一九六九年度卒業）

同志社国文学 第四十一号

同志社大学国文学専攻創立四十周年
国文学会設立三十周年記念論文集

一九九四年十一月一〇日 印刷

一九九四年十一月十二日 発行

編集 記念論文集編集委員会

(委員長) 寺川眞知夫

発行 同志社大学国文学会

(代表) 加美宏

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 〇一〇九〇一一二七三七

印刷所 共同印刷工業株式会社

京都市右京区西院久田町